

## 下嵯峨屋：下の嵯峨屋

### 妻籠の家族生活

この家は 1968 年に復原されたものです。屋根が藁葺きや瓦葺きではなく、屋根板の上に石を載せた板葺き石置き屋根になっていることにご注目ください。妻籠の大半の家屋の屋根はこのような形式でしたが、非常に燃えやすいという欠点がありました。この家の内部は、表の板の間のずっと奥に 2 部屋が道路に並列している、並列二間取りとして知られる、非常に一般的な間取りとなっています。

この、正面から奥に向かって 3 つの区分にしっかりと分けられた家は、若い夫婦向けの「初めての家」でした。この家の前方 3 分の 1 は、そのまま道路につながっており、通行する人々に饅頭やわらじなどを販売するのに使われていたと思われます。中間部分には囲炉裏があり、その奥には畳敷きの座敷があります。この家の囲炉裏部分では、右側の壁のずっと上の方に若干の煙を逃すことができる小さな隙間や、調理器具をホコリから守る小さな吊り屋根にご注目ください。

この家の左側にある大きな木造の扉は馬の出入りに使われていたもので、馬を家の奥にある厩まで移動する場合には馬を連れて土間を通り抜けていました。梁の上には、収納として使われた小さな 2 階の間があります。